

令和 年 月 日

福津市教育委員会 殿

福津市文化財保護審議会
会長 桑田 和明

福津市文化財の指定について（案）

3 福教文 1 0 7 号で諮問のありました下記の無形民俗文化財の指定について、福津市文化財保護審議会規則第 2 条の規定により別紙のとおり答申します。

記

第 1 4 号 福間浦盆踊り

1. 指定文化財の表示及び保持団体

区 分	市指定無形民俗文化財以外の無形の民俗文化財の記録の作成等	
名称及び員数	福間浦盆踊り	
所在地	福津市西福間二丁目、西福間三丁目、西福間四丁目（緑町、南町）	
保持団体の氏名(保持団体にあつては代表者)	団体名：緑町盆踊り保存会 代表者：会長 中野 慎一	団体名：南町盆踊り保存会 代表者：会長 廣渡 義明

2. 概要

福間浦盆踊りの由来については、「豊漁を願う漁祈願で、例年、芦屋から役者一座を招いての芝居興行が行われていたが、ある年、長雨にたたられて興行ができず、一座を網小屋に泊めて区が賄ったことがあった。その時一座はそのお礼という意味で、地元の人々に歌や踊りの手ほどきをし、三味線まで伝授した」^{※1}とされる。南町では「明治十二年ごろ、京都の芸妓が稲川屋という酒屋で教えていったのが始まり」^{※2}という伝承がある。また明治 28 年生まれの男性が青年時代から踊っていたとの話がある^{※3}。

緑町^{※4}・南町（旧浜三町の北町・中町・南町）で行われる福間浦盆踊りは、終戦後の中断があったものの、昭和 35 年ごろに復活し現在に至っている。緑町では昭和 39 年まで、南町では昭和 50 年頃までは初盆の家を回る行事であったが、現在はそれぞれの公民館で盆踊りを実施している。両町の盆踊りは、亡くなられた方の供養を目的として、初盆を迎えた人の遺影と位牌を集めた祭壇を前に、8 月 15 日に唄いと太鼓と三味線で踊られている。

記録資料としては多数の唄本が現存しており、最も古い『盆歌 大正拾五年』に始まり、昭和初期の『昭和五年 ぼん踊うた 第三号』、『福間郷土盆踊唄』、『福間浦盆踊歌詞 高木常喜』のほか、昭和 50 年代以降に整理された複数の唄本がある。^{※5}よって福間浦盆踊りは大正 15 年以前に遡るのは確実である。これらの記録資料により合計 19 曲が確認できるが、現在にまで曲と踊りが伝わ

るものは6曲^{※6}である。中でも「きじのめんどり」^{※7}は独特の踊りと飛入りの仮装踊りを伴う特徴がある。^{※8}

福間浦盆踊りの曲目に着目すると、「きじのめんどり」の一節で「きじのめんどり、こまつのしたで、つまを、たづねて、ほろろうつ」は、全国の民謡を集めた明和九年（1772）『山家鳥虫歌』に大和の民謡として「雉子の雌鳥薄のもとで 夫を尋ねてほろゝ打つ」の類歌がある。「お市後家女」は『弦曲粹弁当第二篇』に「お市後家」とある。このように福間浦盆踊りの曲の歌詞の中には、近世の歌謡に類歌がみえるものがある。^{※9}

なお、両町の盆踊りは現在では太鼓や踊りなどのテンポ、歌詞の構成には両町で差異があり、また「薩摩薩摩」は緑町のみ、「宵や町」は南町のみで踊られるなどプログラムにも差が認められる。

3. 選択理由

福間浦盆踊りは唄本によると遅くとも大正15年以前に遡る歴史があり、「大井川」、「高い山」、「きじのめんどり」などの曲目が三味線、太鼓、唄いを伴い継承されている。「高い山」は神湊以南の玄界灘沿岸部の盆踊りに共通する曲目であり、一部の共通する歌詞も残されている。^{※10}

両町では曲目を共有しながらも、太鼓や踊りのテンポが異なるなど、それぞれで変化しながら継承された状況を知ることができる。

福間浦固有の「きじのめんどり」は仮装を伴う独特の踊りで、他の曲目と違い両町で踊りが完全に共通することもあり、福間浦盆踊りの代名詞となり福間浦としての両町の連帯感を生み出している。

資料としては多くの唄本が残されており、福間浦周辺地域に由来する歌詞の創作・追加が認められる。歌詞の創作・追加は大正15年の「竹わ」に既にあり、昭和50年代まで認められる。^{※11}

福間浦盆踊りは、変化しながらも現在まで曲目が継承される地域的特色のある民俗芸能である。このことから市指定無形民俗文化財以外の無形の民俗文化財の記録の作成等を適用し、市選択文化財として記録の作成を行う。^{※12}

※1 『福間町史通史編』2000 福間町史編集委員会 P1005：一古老の記憶としての掲載あり

※2 1979年の「まつりむなかた宗像郡郷土芸能祭」のチラシに古老の話としての掲載あり

※3 『昔語り福間あのこと』福間町教育委員会 1992 P250：平成3年の聞き取り調査

※4 緑町は昭和15年に北町と中町が合併して成立（町事報告書より）

※5 『盆歌 大正拾五年』・『福間浦郷土盆踊唄』は南町系、『昭和五年 ぼん踊うた 第三号』・『福間浦盆踊歌詞 高木常喜』は緑町（旧北町・旧中町）系と思われる唄本

※6 「大井川」、「宵や町」、「お市後家女」、「高い山」、「きじの女鳥（雉のめんどり）」、「薩摩薩摩」の6曲。なお南町の動画資料（平成12～14年）中には、現在は踊られない「川を」、「竹わ」の2曲が確認できる。他に「舟わ」、「飴の名物」、「十二月」、「御繁昌」、「酒のさの字」、「雪に宿かり」、「坊主山道」、「吉屋結び」、「なぞ」、「私が在所」、「笹に雀」の11曲。

※7 「きじのめんどり」の現在表記は緑町が「雉のめんどり」、南町が「きじの女鳥」

※8 飛入りの仮装踊りは、古くは女装した青年によるものであった。現在の南町は仮装コンテストとして大

人の部、子どもの部に分けて女装に限らない仮装が行われる。緑町は飛び入りで仮装踊りが加わることもある。

- ※9 『弦曲粹弁当第二篇』は天明三年（1783）に成立。他に「薩摩薩摩」は文政五年（1822）成立『浮れ草』の「薩摩節」に類似の一節をみることができる。
- ※10 神湊盆踊りの「高い山」の歌詞「あの娘よい子よボタモ餅顔でナー 黄粉つけたら尚よかるナー」は福間浦盆踊りの「高い山」の歌詞に共通する。
- ※11 大正15年の「竹わ」に「松は緑の福間浦の御神木」の歌詞がある。
- ※12 下記の二（三）に該当する。

福津市記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択基準

二 民俗芸能のうち次の各号のいずれかに該当し、重要なもの

- （一） 芸能の発生又は成立を示すもの
- （二） 芸能の変遷を示すもの
- （三） 地域的特色を示すもの